

The University Times

January 2013 Vol. 26

<http://jtimes.jp/utimes>

produced by IELTS by Eiken × The Japan Times ©THE JAPAN TIMES, LTD. 2013

CONTENTS		■ Career Centers: キャリアセンター探訪 早稲田大学 4	■ News in English 英文記事を読んでみよう 7	■ University's Challenge: 国際交流に取り組む大学 千葉大学 10
■ Visit a Global Company: グローバル企業訪問 株式会社商船三井 1 2	■ Learn About Industries: この業界を知りたい! 金融業界 5	■ Studying Abroad in the U.S.A.: 私の米国留学/読んでほしいこの3冊 米国留学記/書籍紹介 8	■ IELTS リーディングテストのコツ 11	■ Crossword and Trivia 読み物 12
■ Journalist's Eye: 英字新聞記者の視点 「安倍政権」/「親権」 3	■ Columns: IELTS Hot News / アゴス・ジャパンに聞く IELTS Hot News / 海外の学部 6	■ Study Abroad Benefits: 留学で培う3つの力 マルチタスク力・状況把握力・行動力 9		

Visit a Global Company: グローバル企業訪問

暮らしと産業を支え 世界経済の発展に貢献

Vol. 16 株式会社商船三井 **MOL** 商船三井

1884年の創業以来、海運業に特化し、さまざまな貨物の海上輸送を通じて世界中の人々の暮らしや産業を支えてきた商船三井。世界最大級の運航規模で、世界経済の持続的発展と人々の豊かな生活に貢献している。

総合海運企業として、海運に特化した商船三井。船を利用して、資源・エネルギー、原材料、製品など様々な貨物を世界中に届けている。

「世界の貿易で運ばれる貨物は、重量ベースでおおよそ97%が海上輸送で運ばれています。島国の日本では99.6%が海上輸送です」

こう話すのは人事部人事第一グループの中西慶一郎さん。海運の魅力について、「世界規模のビジネスに挑戦しながら、世界経済の

発展に貢献できること」と自負をのぞかせる。「当社はB to B企業ですので、身近に感じにくいかもしれませんが、朝起きてから夜寝るまで、日常生活で使用するほとんどすべてのもが当社と関わっています。つまりそれだけ経済と連関しているということです」

言われてみれば確かに衣類、食品に始まり、電気のエネルギー源となる石炭、原油やLNGまで身の回りにあるもの、関わるものほとんどが、商船三井が世界各国から運んで

きた資源・エネルギー、原材料を使用したものや運ばれてきた製品そのものである。

「当社は約950隻の船を常に7つの海で動かしています。新入社員は、ゆくゆくはこれらの船と海外約50カ所の拠点、300社以上のグループ会社を率いるリーダーになってもらいます」と中西さんは語る。もちろん若手社員は受け身ではられない。現場に放り込まれ、トライ&エラーで学んでいくことが前提だ。

「入社してから約9年の間に少なくとも3つ以上の異なる業務経験をするジョブローテーションを通して海運のプロフェッショナルになるために、営業部門、管理部門、海外の現地法人をはじめとするグループ会社などを、それぞれ3～4年間経験することで、特定の専門家ではなく、商船三井グループ約3万人を率いる経営者になってほしいと考えています」

商船三井では、入社1年目より重責のある仕事を次々と任せられる。

「新人研修(配属前研修)を終え、営業部門に着任すれば、5月下旬に先輩社員と一緒に担当業務に就き、7～8月頃からトレーナーの先輩社員の指導のもと、船の運航管理業務を学び、遂行していきます。秋には完全に一人立ちできるようにしています。担当する船種にもよりますが、原油を運ぶタンカーならばひとりで5隻程度、穀物や塩を運ぶドライ



人事部人事第一グループの中西慶一郎さん

バルク船ならば10隻程度は担当してもらっています」

原油を積むタンカーは、大型船ならば、1隻で30万トンの原油を運べるという。日本の1日の原油消費量は約50万～60万トンなので、日本の約半日分の原油の油送を任されていることになる。一人ひとりの責任は重い、やりがいはそれ以上に大きい。

求めるのは「自律自責型」の人材

世界中が活躍のフィールドとなるので、英語力は当然必要になってくる。だが、「入社時に完璧な英語を話せる必要はない」と中西さんは言う。

入社して最初の1年間は、英語の研修プログラムがあり、個人の英語力に合わせて、プライベートレッスンやグループレッスンを受講する。それらのレッスンと日常業務が絡みあって、英語力は飛躍的に伸びる。

「担当する部署によっては普段のEメールの9割が英語です。当社は外航海運という国際貿易の領域ですので、契約書はもちろんすべて英語、かかってくる電話も英語が多くなりますから、自然と英語が使えるようになります」

入社1年後からは、語学の場合は半額、それ以外の学習は全額、会社より補助がある通信教育講座も用意されているという。

「マネジメントスキル、プレゼンテーション能力、セルフコーチング、ロジカルシンキング、経理・財務など160種類以上の講座があります。学ぶ場はいくらでも提供しておりますので、やる気と意志があれば、かなりの能力向上、スキルアップは可能です」

入社10年以内で、おおよそ3割が海外勤務を経験する。海外勤務がない場合でも、3カ月以上の海外短期留学か海外実務研修に



昨年、最新の「ハイブリッド給電システム」を搭載した自動車搬送船「EMERALD ACE (エメラルドエース)」が就航した

Visit a Global Company

グローバル企業訪問

全員が行けることになっており、現地でのライブな経験に基づいたグローバルな対応力を培う。その中で、英語力はあくまでも「武器」のひとつにすぎないと言う中西さん。

『学生時代に留学していたので、英語が話せます』だけでは意味を成しません。留学を通して自分は何を学んだか、それを将来どう活かしていきたいか。そこまで突き詰めて話ができる学生には魅力を感じますね」

面接では、一人ひとりの話を、テーマを掘

り下げて聞いていくことが多い。

「何を経験したかではなく、その経験に根ざして何をつかんだかを聞きたいのです。冗舌でなくても、自分の言葉で自分の体験を話せる学生にはざらりと光るものを感じます」

同社が求めるのは、「自律自責型」の素養を持つ人材。たとえ難題に直面しても、当事者意識を持ち、解決策を見出し、関係者と協調しつつ、自らその解決策を実践できる人材だというのが、具体的にはどんな人物を表す

のか。

「まず、困難に立ち向かうファイティングスピリット。それをやり遂げられる心身のタフネスさ。商船三井グループ約3万人を引っ張っていけるリーダーシップ。そして現場をうまくまとめ上げ、国内外の関係者との折衝もそつなくこなせるコミュニケーション力。この4つの素養が少しでもあれば、当社の社員としての資質は十二分にあります。自信をもって、チャレンジしていただければうれしいです」

MOL 商船三井

株式会社商船三井

1884年創業、世界最大級の約950隻の運航隻数を誇る外航海運会社。東京に本社を置き、海外に50カ所以上の拠点をもち、300社以上のグループ会社を率いる。世界中を網目のようにネットワークで結び製品を運ぶコンテナ船、鉄鉱石、石炭、木材チップ、穀物などを運ぶドライバルク船、原油や石油製品を運ぶタンカー、液化天然ガスを運ぶLNG船、自走する自動車・建設機械を運ぶ自動車船など、多様なサービスで時代の要請に応える。連結売上高1兆4000億円強、世界最大の総合海運企業として世界の物流を支え、成長を続ける。

<http://www.mol.co.jp/>

グローバル企業の先輩に聞く！

外国の文化や国民性を理解し、多くのことを気付かされる仕事

北垣 裕孝 さん

株式会社商船三井
本社勤務〈駐在時、Mitsui O.S.K. Bulk Shipping (Asia Oceania) Ptd. Ltd.〉



1994年入社、入社後3年間は、定航営業部（現株式会社MOL JAPAN）でコンテナ船のスペース管理と営業を担当。1997年から自動車船部で航路運営・運航管理を担当し、2004年から2008年までタイに駐在した

Q 最初の配属でのお仕事内容を教えてください。

A 日本を発着するコンテナ船のスペース管理の業務と営業をしていました。担当地域は、アフリカ・中南米・大洋州の航路で、スペース管理では、日本国内の横浜、名古屋、大阪、福岡の営業店と日々電話にて調整を行い、お客様が満足し、当社にも最適になるようにしていました。また、営業では、お客様を訪問し、契約の交渉などを行っていました。前者の業務を通じて、受け身ではなく自分で予測を立てて考える大切さ、後者では正確に迅速に誠実に、社会人として仕事に真摯に取り組む姿勢を学んだ充実した3年間でした。その後、自動車船部に異動となりました。

Q 語学はもともと得意だったのですか？

A 学生時代は経済学部で日本経済論を専攻していました。海外展開する日本企業や世界の出来事には関心は高かったのですが、自ら英語を使ったりする機会を持つこともなく、語学はさほど得意ではありませんでした。ですから、自らの意志で英語の勉強に取り組んだのは社会人になってからです。最初の配属では、輸送する貨物の現地への連絡等、輸出先の相手国の窓口とはすべて英語でやりとりが行われており、配属早々簡単な事務連絡でしたが、「英語で文書を作って」と指示がありました。汗だくで作ったもののトレーナーの先輩から赤ペンで見事な添削をもらったことを今でも鮮明に覚えています。

Q 英語はどうやって勉強したのですか？

A ヒアリング力の強化のため、英語のCDを聞いたり、英文作成講座の通信教育、先

輩の学習方法を参考にしながら自習中心に勉強しました。やはり実務や仕事の中で、業務で英語を読む、応答する英文を作成する、契約書を読む、契約書を修正する、プレゼンテーション資料を作ることを繰り返して、トレーニングを積めたと思います。在ロンドンの英国人と電話やメールをやりとりする業務担当になって暫くした頃より、滑らかではありませんが伝えたいことを確実に、聞くべきことは漏らさずに、話すことと聞くことが目に見えて向上した気がします。そうすると新しい表現を知りたいという欲求が高まり、更に工夫しようとする循環が生まれました。

Q なぜ商船三井に入社したのですか？

A 純粋に海外と関わり、海外で働いてみたい、スケールの大きな仕事がしたいと考えていたからです。今の学生さんからみると、あまりにも単純な動機に映るかもしれませんが、まだまだ海外が遠かった世代ですので、海外に行くとコミュニケーションをとり、商いをしたいという気持ちが強かったです。子供の頃から当社のロゴをよく目にしていたこともあり、ここなら世界中を舞台に大きな仕事ができるのではないかと思いました。実際、入社してからの毎日は大変ながらも本当に刺激が多く、楽しく、時に厳しく、自分の選択に間違いは無かったと確信しています。

Q タイ駐在時代に気付かされたことは？

A タイ人はとても礼儀正しい国民性で、相手を過分に配慮することがあり、笑顔で「はい（チャイ・クラップ）」と返事するものの、その場限りのお愛想や応答であることが多々あります。そのような経験から、仕事では、タイの同僚への指示事項は、相手がこちらに質問や確認をすることが出来るように必ず一時間かけて工夫していました。

それからタイ人は大きな声をあまり好みません。一度でも大きな声を上げて感情的になれば、それ以降は良好な関係でのリスペクトを得られません。そのような文化・国民性も踏まえた立ち居振る舞いを心掛けていました。たとえば、タイの挨拶では、ワイ（両手を合わせて合掌する）というものがありますが、どうすれば美しいワイができるか、どのような気持ちで手を合わせるかなど、自分流の研究もしました。ある方より、お世辞だと思いますが、「北垣さんのワイは今まで出会った日本人の中でもなかなか美しいね」と言われた時は妙にうれしかったです。

また、国や民族、育った環境などを通じて外国の人を理解していくことは面白いと感じました。その中で、自分の考え方はものごとのある一面に過ぎず、自分の考え方以外にも



コンテナ船サービスは世界中にネットワークを広げる

様々なものの見方や、ゴール設定のし方、それに至るプロセスの違いがあることなど、大なり小なりの気づきが多かったです。自分自身の人格すら変化した気がします。

Q 学生へのアドバイスをお願いします。

A 英語が苦手でも、学ぶ意志さえあれば語学力は伸ばせると思います。よくOB訪問などで、「会社の英語研修ではどのようなメニューがあるのですか」、「何をしてくれるのですか」と質問する学生の方がいます。会社が何かしてくれると期待して待っているのでは、自らの道は拓けないと思います。語学のみならず、すべてにおいて、自分の明確な意志と覚悟が一番大事だと考えます。

学生時代の経験を通じて、自分が何を学んだか。どんな影響を受けて今の自分になったのか。それを今後どのように活かして、社会人となってから世の中に貢献・還元し、自分自身が成長していくか。それらを等身大の自分の言葉で語れることに期待しています。過去・現在・未来の連続する時間軸を踏まえ、将来への意志やありたい姿の膨む姿を期待値として企業側はしっかりと見ていると思います。

顔を上げて、今日一日に感謝し、前向きに、一心不乱に、ポジティブにものごとを受け止め、最後まで頑張ってください。

北垣さんのお仕事アイテム



「100隻以上の船がどの位置にいるかを把握するため、常に地図と地球儀を見ていました。大事なことを忘れないように記録するメモと付箋紙も、営業のマイアイテムです」

Journalist's Eye

英字新聞記者の視点

日本のニュースを英語で発信しよう！

英字新聞 The Japan Times 記者が語る
日本の「今」を世界に伝えるための心得

—— Vol. 16 by Masami Ito

日本で起こっていることを外国人に伝えるには、物事の背景を理解し、分かりやすく説明するスキルが求められる。このコーナーでは、記事をより深く理解し、自ら説明できるようになるためのコツを英字新聞 The Japan Times の記者に教えてもらう。今回は、昨年 12 月に誕生した新政権の政策と、意外に知られていない日本の子どもの「親権」の問題について、伊藤聖美記者に伺った。

安倍政権が前政権の方針に対する見直しを発表、海外からも高い関心が寄せられている
KYODO

■海外が注目する、新政権の政策とは？

- Prime Minister Shinzo Abe's Cabinet got down to work dismantling various policies of the previous administration, including the zero-nuclear target, and musing on a review of the 1993 Kono Statement, an apology for the coercion of women into sexual slavery during the war.
- 職務に就いた安倍晋三内閣は、前政権の政策を変えつつある。中には、原発ゼロ方針や、戦時に女性を強制的に性的奴隷にしたことへの謝罪を行うとする、1993 年の「慰安婦関係調査結果発表に関する河野内閣官房長官談話」の見直しなどが含まれている。

昨年 12 月末、自由民主党の安倍晋三首相による内閣が発足し、新しい政策を発表しました。中には、前民主党政権が取り組んできた問題について軌道修正しようとするものが見られました。一つは、前政権が「2030 年代までに原子力発電を完全に廃止する」と発表したのを見直すとしたものです。また、1993 年の「慰安婦関係調査結果発表に関する河野内閣官房長官談話」について触れ、この談話についての再検討が必要であるといったよう

な示唆がありました。この談話は、慰安婦の存在と、直接または間接的に、旧日本軍がそれに関わっていたことを認めるもので、これを覆すことは、国際的に大きな意味を持ちます。

「原発ゼロ」から方向転換

前政権は、世論の強い要望に応えるかたちで、昨年 9 月に原発ゼロ方針を打ち出しましたが、これには経団連（日本経済団体連合会）の強い反発がありました。

電力供給の不足は、経済のさらなる停滞を招きかねないからです。経団連は自民党の強力な支援者であり、政権を奪取した自民党は、原発を減らしはするけれどゼロにはしない、という方向転換を行いました。このゼロ方針撤回の判断を、経団連は大いに歓迎しているようです。

しかし、原発の安全性についてまだまださまざまな議論が行われている中、今方針を変えてしまってもよいのか、国内外から大きな批判や懸念が寄せられています。自民党と連立政権を組んでいる公明党は「原発ゼロ」を打ち出しているの、これからの動きを注目していきたいところです。

従軍慰安婦問題の見直し

従軍慰安婦の問題は、第二次世界大戦中、日本軍が朝鮮半島など占領したアジアの国々で、現地の女性に組織的な売春行為を強いたとされるもので、アジア諸国だけでなく、アメリカなど諸外国からも高い関心が寄せられています。1993 年、当時の河野洋平官房長官が、実際に慰安

婦とされた女性たちに、本人たちの意思に反し、厳しい生活を強いたことを認め、謝罪する談話を発表しました。これに対して安倍政権は、「有識者の検討が行われることが望ましい」といった遠回しな言い方で、談話の内容を見直す方針を示しました。この問題は、これからの日本の外交に大きな影響を及ぼすものと考えられています。

尖閣諸島、竹島など、日本は現在、中国・韓国との領土問題も抱えています。自民党は政権に就く前からこれらの問題に対して強気の姿勢を見せ、安倍晋三首相は、海外のメディアでは Hawkish Abe（タカ派の安倍）などと呼ばれています。今回の安倍政権の誕生については、「日本の右傾化が進むのでは」という懸念も大きいようです。

当初強気の政策を掲げていても、結局は現実的な妥当策に落ち着くのではという期待もありますが、政府がこれからどの方向に向かうのか、私たちがじっくり見ていく必要があると思います。

* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nn20121228a1.html>

■子どもの親権は誰の手に？

- Watanabe is one of many parents in Japan who have been torn away from their children after a falling-out with their spouse in a nation that grants only sole custody, usually to the mother.
- 渡辺氏は、配偶者との不和との結果、子どもと引き裂かれた多くの親の一人である。日本では単独親権制度が採用され、親権はたいてい母親に渡される。

日本人女性と外国人男性が結婚し、離婚となった場合、日本人女性は勝手に子どもを日本に連れて帰ってしまうことが多く、これが「誘拐罪」にあたるとして、国際的な問題になってきました。同じような問題が日本国内でも起こり得ることを、栃木県那須塩原市の渡辺泰之副市長が、自らの例として訴えています。

ある日突然、妻が子を連れて家出

2 年前のある日、渡辺氏の妻は娘を連れて実家へ帰ってしまいました。子どもの面倒を見る「監護権」を巡って妻と裁判で争ったところ、裁判所は妻を監護者として認め、渡辺氏への引き渡しは認め

ませんでした。「ある日突然住み慣れた家を出ることになり、父親とまったく会えなくなってしまう。子どもがどんな気持ちでいるかを考えると、とても黙ってはいられません」と、渡辺氏は語っています。

この背景には、「子どもは母親が面倒を見るもの」という、日本社会の暗黙の了解があると考えられます。妻は当然のように子どもを連れて家を出、それが悪いことだなどとは、思いもありません。

海外で広がる「共同親権」

日本では、離婚後に片方の親が親権を持つ「単独親権」のため、子どもを連れて出た母親が、たいていそのまま親権を

手にします。しかし、アメリカ、ドイツ、フランスなど海外の多くの国が両親の「共同親権」の制度を採用し、離婚後も両方の親が同様に養育の権利を持ちます。また、離婚後に片方の親が一方的に子どもを母国へ連れ去ってしまった場合、もう片方の親が返還を求めることができることとした、「ハーグ条約」（国際的な子の奪取の民事面に関する条約）に、多くの先進国が加盟しているのですが、日本は制度や文化的習慣の違いのためか、いまだに加盟していません。

自らの家庭問題について公表した、栃木県那須塩原市の渡辺泰之副市長
SATOKO KAWASAKI

最近、民法の改正により、協議離婚時には面会や養育費など子どもの利益を最優先して決められるべきとされたのですが、一般にはまだ、そういった取り決めが重要であるという意識が浸透していないようです。

日本でも最近、育児に熱心な父親が「イクメン」と呼ばれるなど、子育てに関心の高い父親が増えてきました。子育てにおける父親と母親の役割について、今までの考え方を見直す時が来ているのではないかと思います。

* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nn20130104f2.html>

●今月の記者●

伊藤聖美さん
MASAMI ITO

2001 年ジャパンタイムズ入社。学芸担当、社会担当を経て、現在は主に政治問題を扱う。法務省、外務省、防衛相、官邸など幅広く取材、昨年 12 月は衆議院総選挙取材で忙しい日々を送った。

Career Centers

キャリアセンター探訪

キャリアセンター探訪

大学の就活支援

金棒のいない「鬼」の育成をめざす

● 早稲田大学

就職希望者の大半が内定をもらい、社会へ巣立つ早稲田大学。その就職率の高さは、ワセダコミュニティの中で過ごすうち、人としての「生きる力＝^{じりき}地力」が磨かれることが、その原動力となっているという。

就職活動は親の出る幕ではない

「早稲田大学では、就職を希望するほとんどすべての学生が、内定をもらいます。ごく一部就職留年する学生もいますが、それは内定がもらえなかったからではなく、気に入った就職先がないからという理由であることが多いです」

こう語るのは、学生部の中村正道キャリアセンター担当部長。ご自身が、昨年社会人になったばかりと大学4年生の2人の子どもの持つ、「就活生の親」でもある。

「私はよく、『就職活動は親の出る幕ではない』とはっきり申し上げています。なぜなら、就職は本人が判断・決断して行動するのが全てであって、親と二人三脚で行うものではないからです」

ご自身の経験もふまえた中村さんの話には、強い説得力がある。「面倒を見れば見るほど子どもは大人になれません。私自身の子どものことを考えてもそうでしたし、学生の多くも同じです。キャリアセンターでは、さまざまな支援プログラムを提供していますが、待っているだけでは何も手に入りません。自らの意思で選び取る必要があります。キャリアセンターだけでなく早稲田大学で提供されているプログラムは、自らの意思で選び取る学生だけが有効に活用できるものばかりだと言えます」

一方で、地方出身者の保護者に向けては、年に少なくとも1回は実際に対面しての情報開示を行っている。



中村正道キャリアセンター担当部長

「私たちは、毎年、首都圏を除いた全ての道府県で講演会や父母会などを行っています。総長をはじめとする理事者の講演会に加え、学生の勉学環境と就職環境を説明する父母会、そして希望者には個人面談も設けています。私は年間150人以上の親御さんと実際にお話をしていますが、『待ち受け姿勢ではダメ。自分から能動的に動かないと何も手に入らない』というワセダ流学生生活の過ごし方に、ほとんど100%の保護者の方が理解を示してくださっています」

「鬼」を磨いてこそ「金棒」が生きる

早稲田大学には、知識を深め、考える力を鍛えたり社会経験を積むプログラムなど、数多くの成長の場が用意されている。サークル活動やボランティアなどの課外活動も盛んで、主体的に行動すれば、意欲に応えてくれる場はいくらでも見つかるが、受け身でいる限り何も得ることはできない。

「何でもそろっているし、何でも用意していますが、個々の学生にこちらから声をかけることはありません。あくまで『自分で取りに来い』というスタンスです。面倒見ゼロが当たり前である一般社会と同じだということです。」

2002年の秋に、「学生部就職課」から「キャリアセンター」に名前を変えて10年。2013年度からは「次の10年」を見据え、社会を生き抜く力を持った「自立したオトナ」を育成することに力を注いでいきたいと目標を掲げる。

「『鬼に金棒』ということわざがあります。『鬼』を学生自身の『生きる力』に、『金棒』を面接対応力などの就職対策スキルに見立てましょう。就職活動というと、一般的にこの『金棒』に関心が集まりがちですが、肝心なのは、鬼が強いこと。キャリアセンターには、もちろん『金棒強化プログラム』も揃っていますが、今後は、大学が持つ多様な場を活用して、『鬼』自身を鍛えることにもっと力を入れていきたいと考えています」

金棒は強い鬼が持てこそ役に立つ、と中村さんは力説する。「骸骨が金棒を持っていても役に立たないけれど、鬼の力が強ければ、たぶん金棒なしでもやっていけますよね。充実した学生生活を送るということは、強い鬼になる、ということです。スキルは後からでも身に付きます。まずは大学生活を通して、『自



「業界研究セミナー」の様子

分の居場所＝成長の場』を探し、何かをつかみとって、社会で活躍できる力を備えてほしいと願っています」

早稲田出身者は社会から信頼され、世間からの期待も厚いがゆえに、その期待に応えるだけの高い能力が要求されることが多いという。

「いま、『グローバルリーダー』が求められています。早稲田大学では『グローバルリーダー』というのは、単に世界に出ることだけではなく、グローバルな視点で地域の活性化や文化の発展をリードできる人材のことをも含んで考えています。グローバルリーダーにとって、就職はひとつの通過点。『就職力』をはるかに超える大きな力の獲得を目指してほしいですね」

ワセダ生が日本をつくる!

学生が自立したオトナとして社会に出るために必要な素養や地力は、大学での授業や課外活動など、本来の学生生活の中で培われるものと、中村さんは考える。

「大学は学生が人間として成長する場であり、大学生生活は必ずしも職業選択だけを目的とするものではありません。キャリアセンターでは、本格的に就職活動をはじめ前の低学年生に向けても、自分の生き方や進路の方向性をしっかり見極められるよう、学内のあらゆる知的成長の場を学生に紹介することにも重点をおいて、学生に有益な情報を提供していきます」

意欲のある学生に向けての就職支援活動は、セミナーや個別相談といった対面型のサービスと、PCでの支援サイトがあり、支援サイトでは、求人情報のほか、OB・OG名簿や先輩の就活体験記の提供、セミナーのオンデマンド配信も行っている。セミナーのオンデマンド配信は、キャリアセンターが

掲げる「授業優先主義」のひとつのあらわれである。

また、12月、2月、4月、5月、6月の年5回に分けて、約450の企業・機関に来てもらい、学内説明会も行っている。毎年約8,000人（学部生約6,000人、院生約2,000人）が就職して社会に出て行く中で、多くの学生がこの学内説明会を活用している。1日に5,000人が参加することもまれでなく、実際にこの450社に4,000人以上の学生が就職を決めているという。

「8,000人は約2,900機関に散らばって日本中に出ていきます。早稲田大学は就職がやっとの人材ではなく、社会を支える人材として、就職した先で活躍する学生を育成する社会的使命があると思っています。結局は、『鬼の育成』ということに尽きるのですけれども」

就職という大きな戦いを進めるときに、自ら主体的に臨むことは当然必要だが、同時に「他人の力を借りる力」を持つことが重要だと語る中村さん。「『他人』の中では、キャリアセンターは結構役に立つ『他人』だと思います。早稲田に来たら、ぜひキャリアセンターを訪れてみてください」



早稲田大学が考える成長の場・学びの概念

早稲田大学

1882年、大隈重信が庶民の教育を主眼に、東京専門学校として設立。自由と独創を最大限尊重する校風が特徴で、56万人にも及ぶ卒業生は国内外問わず多彩な分野で活躍している。早稲田地区を中心に、所沢、本庄、日本橋、東伏見にもキャンパスを持つ。2013年度には、大学院に国際教養学部を母体にした「国際コミュニケーション研究科」を新設予定。

Learn About Industries

この業界を知りたい!

この **業界** を知りたい!

不況とはいえ、就職先として相変わらず高い人気を誇る金融業界。ひと口に金融業界といっても、幅広い業種と内容がある中、CFP® 認定ファイナンシャルプランナーで、金融学習協会の理事も務める、大竹のり子さんに、金融業界の現状と今後の動向を聞いた。

30年後の安定を信じない

欧州金融危機の影響がいまだに残り、日本だけでなく世界的にも経済は不透明な状況が続いている。そんな中、従来ほどでなくなったとはいえ、就職先に金融業界をめざす学生は依然として少なくない。

「学生が金融業界をめざす理由は、主に『収入が高い』と『安定している』という2つの理由があげられると思います」

CFP® 認定ファイナンシャルプランナーであり、女性による女性のためのファイナンシャルサービスを提供する会社を経営する大竹のり子さんはこう語る。

金融業界の破綻や統廃合などが相次いだとはいえ、それでも30代前半で年収1,000万円に達することが十分に可能な大手メガバンクは、相変わらず高い人気を集めているという。

「ただ、金融業界が30年後も同じように安泰か、伸びしろがあるか、という点では疑問が

残ります」と大竹さん。

少子高齢化が一段と加速し、国内マーケットの需要も先細りが懸念される上、人手の足りないインターネットサービスの普及も加わって、これからは採用人数もさらに絞られていくだろう、と大竹さんは予想する。

「旧態依然としたスタイルでは、これからはやっていけません。『安定』『大手』ということだけで金融業界への就職を希望するならば、そこは考え直した方がいい」

そもそも金融業界はいまや安定した業界とは言えなくなっている、と大竹さんは続ける。「かつての山一証券や日本長期信用銀行、最近ではリーマン・ブラザーズのように、最大手といわれた会社でも破綻し倒産することもあり得るご時世です。今安定してお給料がいいからといって、30年後も同じように安定して高給が貰える保証は残念ながらありません」

見えないものを生み出す頭脳プレー

ひと口に金融業界といっても、その内容は業界によっても仕事の内容によっても大きく違ってくるが、共通する採用傾向はあるのだろうか。

「大きくいうならば、金融業界というのは、銀行にしても、証券、保険会社にしても、無形のものから何か新しいものをつくりだす業界です。そして、生み出すものにも、ものづくり産業のような形に残る何かがあるわけではありません。

ですから、技術力やスキルに長けているというよりも、頭脳を駆使して物やお金を動かす能力に秀でているほうが望ましいといえます。さらに、部署によっては、国家予算に相当するような何十億、何百億というお金を扱うこともあります。一人では当然できませんから、同じプロジェクトに関わるメンバーとコミュニケーションを取り、頭脳プレーを行っていける人材が求められるのではないのでしょうか」

2006年、国内では74年ぶりに新規の独立系生命保険会社が誕生した。ライフネット生命保険株式会社である。定職に就けない若い世代の収入が低い水準にとどまり、格差社会が広がる現状に対し、「わかりやすく安く便利な商品・サービスの供給」を企業理念に掲げ、昨年3月に東証マザーズへの上場を果たした。インターネットを主な販売チャネルとするネット生保としては国内で2社目となる。

「たとえば、これから金融業界をめざそうという学生は、このライフネット生命保険株式会社のように、これまでの業界の常識を打ち破るような概念や、業界を変えようというくらいの意気込みを持つべきです」と大竹さん。

「世界規模で見ると、アジアをはじめとした新興国は、いま経済の発展途中にあって、マーケットもこれから整理されていく段階です。エネルギーでチャレンジングな精神を持った学生には、ぜひこうした市場も視野に入れて新しい金融ビジネスの展開にトライしてほしいと思います。特にフィリピンやミャンマーなどは、いま経済発展も著しく、マーケットも急成長しています。アジアは、これからは面白いと思いますよ」

安定を求める学生には耳が痛いかもしれないが、変化を怖れたりチャレンジを足踏みするようでは、これからの金融業界では生き残れないということかもしれない。

「学校の勉強が良くできる、だけではこれからの金融業界では勝ち残れません。先を読む力、見えないものを理解する力を在学中にスキルアップしておくといいと思います」

先を読む力を磨くだけでなく、リアルな経済社会を肌で実感するため、大竹さんは学生時代に、株式投資を実際にやってみることをすすめている。

「大きなお金でなくていいので、バイト代で買

える程度の株を、実際に購入して運用してみることをおすすめします。証券会社によっては数百円、数千円の少額から取引ができるサービスもありますので、自分で実際に投資して、どんな状況のときにどんなふうに株価が反応するのかを実感すると、経済・市場の変動や、政治の変化などにもっと敏感になれると思います」

海外でも活躍できるCFP®

また、経済のグローバル化が進む中、日系企業の海外進出や日本企業による海外企業へのM&Aが盛んに行われているため、「チャレンジ精神の旺盛な学生なら、いくらでも海外で活躍できる道がひらける」と大竹さんは指摘する。

例えば、FP資格の最高峰であるCFP®は北米、アジア、ヨーロッパ、オセアニアを中心に世界23カ国・地域で導入されている、「世界が認めるプロフェッショナルFPの証」である。日本国内でこの資格を取得したあと、アメリカに移住して資格を生かして就職を決めた人や、海外に住みながら日本人や日系企業を相手に仕事をするケースも増えているという。

「金融業界で活かせる資格や能力は多様化しています。インターネットの普及により、金融業界にもクラウドの波が来ており、金融業界でありながら、IT系に精通している人材にも需要があります。世界中の経済を動かしていくには、英語力やグローバルな視点はもちろん、世界情勢に通じていることや、すばやく的確な判断がくだせることも重要です」

さらに金融業界で世界の頂点をめざすならば、CFA(米国証券アナリスト)やCIIA®(国際公認投資アナリスト)といった資格もあり、努力と実力次第ではいくらでも活躍の幅を広げていける。

金融業界で新しい自分の可能性に挑戦してみるのも、悪くない。

■大竹のり子

株式会社エフピーウーマン代表取締役、ファイナンシャルプランナー(CFP®認定者)。編集者を経て独立。講演、執筆、メディア出演など、多方面で活躍中。近者に「50歳からの手持ち資金の増やし方」ほか。http://www.fpwoman.co.jp/



世界基準のビジネス英語能力テスト

BULATS

The Business Language Testing Service

世界約47カ国1,172団体、
日本でもすでに350以上の企業・団体が採用

詳細は www.eiken.or.jp/bulats

お問い合わせ tel 03-3266-6366

mail stepbulats@eiken.or.jp

世界と繋がるために

Are you sure your message is getting through?

BULATS

Fast, reliable,
and global



IELTS Hot News

自分の英語力を証明するための試験であるIELTSが、留学を目指す大学生などの間で、存在感を増している。もともと世界的には定番のテストだが、日本でもようやくその流れに追いつく形だ。受験者が増えるにつれ、大学の現場でも、学生がテストを受験しやすくするための環境づくりが本格化している。

充実の留学対策

国内市場の限界が見え、企業のグローバル化が進む中、将来を見据える大学生の意識にも変化が起きている。学生のうちから留学をし、早めに海外の空気に触れることで、国際感覚を磨こうという学生が増えているのだ。こうした学生のニーズに応えるため、大学側もサポート態勢に力を入れている。

京都大学では、昨年の10月から3カ月間、「海外留学に必要な英語運用能力を育成する」ための講座を開いた。全13回のコースを受けると、留学準備に必要な予備知識やIELTSなどの英語能力評価試験の攻略法などが分かる構成だ。

講座では、イギリスやカナダ、オーストラリア、アメリカといった国々の大使館や関連機関などから担当官を招き、各国の留学先としての特徴や留学までの手順などを紹介してもらった。留学先の特徴を知ること、学生が本当に行きたい留学先を見極められるようにするための。

また、あわせて、IELTSのeラーニング

プログラムも盛り込んだ。留学する際には、留学先に自分の英語力を証明しなくてはならない。より高いスコアを獲得することができれば、留学先の選択肢が広がる。学生のIELTSスコアを底上げするのが狙いだ。IELTSの4技能の中でも、日本人が不得手としているライティングテストに課題をしぼり、講座に参加している学生がオンラインを通じて取り組めるようにした。毎回ネイティブの添削者からフィードバックがあることもあり、学生からの反応は上々だった。京都大学では、来期も同様の講座を開講する予定だ。

単位取得も可能に

こうした取り組みを仕掛けているのは財団法人日本英語検定協会の国際事業チームだ。同チームでは、ひとりでも多くの大学生が意義のある海外留学を実現できるよう、留学に必要な知識とスキルと心構えが会得できる種々のプログラムを用意し、全国の大学とコラボレーションをしている。

一歩進んだ取り組みもある。九州大学で

は、同チームが用意する半期の「海外留学用IELTS講座」を受講すると、単位が取得できるようにした。留学先国の研究やIELTS対策、実際に留学を経験した大学OBらの体験談を聴講する内容だが、留学への下地を整えながら、単位まで取得できれば、学生にとっては一石二鳥といえる。

また、明治大学でも「国際キャリア特論」という単位取得可能な半期の講座を設け、個人のキャリア形成における留学がもつ影響力のあり方を授業している。

同チームでは、学生が留学へのモチベーションを高めていくきっかけになるよう、今後も単位取得ができる講座を各大学で増やしていく予定だ。

普及するIELTS受験

一方で、単発のIELTS対策講座を実施する大学も増えている。立教大学や青山学院大学では昨年、IELTSの試験日に先駆けて、集中対策講座を実施した。また、多数ある京都の大学が加盟している大学コンソーシア

ム京都も、加盟校の学生なら誰でも参加できる同様の対策講座を実施した。各校とも、学生が少しでも良いIELTSスコアを取れるように環境を整え、留学サポートにつなげたいと考えている。

2012年に学内でIELTSの団体受験を実施した大学は37校。これは2年前と比べると6倍以上という高い伸びだ。背景には、IELTSこそがグローバル時代に相応しい英語運用能力試験であるという評価の広がりがある。世界中の大学が採用しているグローバル性と日本人にとってもとつきやすいというテスト特性から、教育関係者が俄然注目しているのだ。

留学の重要性が日増しに高まるなか、IELTSの団体受験や対策講座を実施する大学はますます増える予想されている。今後留学を考えている人は要確認だ。

財団法人日本英語検定協会

国際事業チーム

問い合わせ先：03-3266-6121

(東日本担当・塩崎)

06-7670-8085

(西日本担当・森岡)

国内のIELTSに関する数字

	2010	2011	2012
団体受験(学校数)	6	19	37
団体受験(受験回数)	6	28	59
セミナー(学校数)	25	51	63
セミナー(回数)	40	78	140

アゴス・ジャパンに聞く

海外の気になる学部



by 株式会社アゴス・ジャパン
後藤道代

まずは、スタンフォード大学のd.school(ディー・スクール)と呼ばれる、デザイン学部を紹介します。最先端起業家を生み出すシリコンバレーで、中枢となるスタンフォードならではの発想とチャレンジから生まれたスクールです。「革新的なものを生み出す」ことが目的ではなく、「革新的な人を生み出す」というコンセプトに基づき、ひとつの分野にとどまらず、工学、医学、ビジネス、法律、人文科学、教育といった多様な分野の生徒や教授陣が協働して、今までにない、創造的な学びの機会を作ることに焦点を当てています。

失敗から学ぶという考え方

d.schoolには、「Design Thinking」(デザイン思考)という基本コンセプトがあります。人間の内なる考えや感じ方を重要視して、人間が作り出した複雑な問題の根本を解き明かし、解決策を試ししていくというものです。また、解決策を素早く形にし、プロトタイプを試行しながら改善していく方法を実践していきます。そのために、実社会でのプロジェクトに、さまざまな分野から集まるチームで取り組んでいます。

Design for Extreme Affordabilityという2学期間にわたるコースでは、途上国向け製品やサービス開発をNGOと提携してプロジェクトを行います。デザイン、テクノロジー、ビジネス分野の大学院生がそれぞれの専門を生かしながら、クリエイティブな製品デザインやビジネスモデルを作ります。途上国のNGOと連携することで、現地ユーザーの本来のニーズや問題点を理解することができ、デザイン思考プロセスに組み入れた製品を開発することができるのです。

また、実用化に向けて、すぐさま現地NGOを通して試作品をテストし、フィードバックを得て改善し、完成に近づけていきます。従来のビジネスモデルとの違いは、数値分析に基づく理論を組み立ててからプロジェクトを立ち上げるのではなく、とにかく行動第一、というアプローチです。失敗を恐れず、むしろ失敗から学ぶという考え方が、最先

今回は、最近注目されているデザイン・スクールを紹介します。デザインといえば、ファッションデザインや建築設計などをイメージしますが、英語のデザインには、目的を果たすためのアプローチ、プロセス、論理思考、媒体などを含んだ意味があります。「問題解決のために、新しい思考や概念をデザインする」という発想から生まれた分野です。

端起業家を生み出す風土を作っていると言えるでしょう。まさにイノベーションを生み出す際に不可欠な要素です。

ウェブで無料の講義

もうひとつ、Innovations in Education: Designing the Teaching Experienceというコースを紹介します。このコースでは、インターネットを利用した教授法をめぐって、議論の渦中にあるMOOC(massively open online course)の更なる時代をいくデザインを試行しています。世界で話題となっているMOOCは、ウェブで大学の講義が無料で受けられ、ユーザー同士が互いに教え合えるコミュニティーもあり、学習方法だけでなく、大学運営の在り方に大きな変革をもたらす可能性があるとして、教育者、技術者、教育ビジネス起業家の注目を浴びています。

他の大学では、最先端テクノロジーとサイエンスで未知なる世界を切り開くマサチューセッツ工科大学(MIT)のMedia Labがあります。Media Labという名の通り、Media Arts and Scienceにあり、さらにSchool of Architecture and Planningに属しています。d.schoolと同じく、デザインとテクノロジーがコラボした、イノベーションを作りだす分野です。今回は、MITのコースを紹介していきたいと思います。

株式会社アゴス・ジャパン

大学・大学院留学のテスト対策、出願対策の指導専門校。トップ校合格に必要な各種英語テストの攻略法および出願カウンセリング指導により、過去3年間で約2,500件以上という、圧倒的な合格実績を誇る。大学でのテスト対策講座なども行っている。

■東大生の留学体験記を無料で!

iPhone・iPadアプリ「東大より留学」
<https://itunes.apple.com/jp/app/id568008104>

後藤 道代 (ごとう みちよ)



留学カウンセラー歴18年、アゴス・ジャパン学部留学担当、インディアナ大学教育大学院、言語教育学修士、プリティッシュ・カウシル公式資格取得カウンセラー

■d.schoolがパートナーシップを持つ企業・非営利団体の例(一部)

- Visa
- Electronic Arts
- JetBlue
- PepsiCo
- Google
- Mozilla Foundation
- Proctor&Gamble
- Gates Foundation
- Motorola
- General Electric
- Teach For America
- WNYC public radio

News in English

英文記事を読んでみよう

This month's selections from The Japan Times

Frenchwoman fired after 3/11
sues NHK to regain her jobKazuaki Nagata
STAFF WRITER

A Frenchwoman dismissed by NHK filed a lawsuit Jan. 15 against the public broadcaster, claiming her radio announcer contract was unjustly terminated after she temporarily fled Japan at the start of the nuclear crisis at the Fukushima No. 1 power plant in March 2011.

Emmanuelle Bodin, who had worked at NHK for more than two decades, said she received permission from a superior to leave Japan with her two daughters on March 15, 2011, following an instruction by the French government for French nationals to evacuate.

Bodin told NHK that she would be back by March 30, 2011, but was notified by a letter dated March 22, 2011, that the broadcaster was terminating her yearly contract, saying she "walked off" her job.

"In order to protect my family, I decided to temporarily leave Tokyo. ... Prior to my departure I followed the required NHK work procedures, which included obtaining permission from my management," Bodin

said in Tokyo at the Foreign Correspondents' Club of Japan, where she and one of her lawyers, Kazuyuki Azusawa, held a news conference.

"I have faithfully served NHK for the past 21 years. I was very proud to work for such a prestigious organization," she said.

Bodin is seeking her job back and ¥22.17 million in damages.

She started working at NHK in 1990 as an announcer for the French section of Radio Japan. She was on a yearly contract and said NHK had renewed her contract in February 2011.

Her lawyers said provisions of the contract say NHK can terminate the deal if the employee's inadequate work performance has no prospect for improvement or if a situation occurs in which the firm has no choice but to end the contract. NHK told Bodin that its reasons for terminating her contract were based on these provisions.

According to the lawsuit, NHK claims it canceled her contract because she called and told NHK she couldn't come in to work



Emmanuelle Bodin, a former announcer at NHK, speaks at the Foreign Correspondents' Club of Japan in Tokyo on Jan. 15. KAZUAKI NAGATA

in a unilateral manner and caused trouble for the company.

Bodin was scheduled to work that March 15, but she asked a colleague to cover her shift and the program was aired without problems, her lawyers said.

She also said eight other workers in her section fled Japan but all were allowed back to work.

"I don't really know the reason why I was pinpointed like this," Bodin said.

An NHK spokesman said other foreign contractors had notified NHK at least a day in advance, while Bodin waited until 3½ hours before her program.

Because of the turmoil in the wake of the

earthquake and tsunami, it was likely to be difficult to find someone to cover her shift, and Bodin, who had more than 20 years of experience, should have known how canceling out on short notice would cause serious trouble, the spokesman said.

Bodin's lawyers also said that, considering the severe situation of the Fukushima crisis at that stage, even if Bodin had really walked off the job without permission, she would deserve a chance to come back, especially because she had been a dedicated worker for many years.

The NHK spokesman refused to elaborate on this point, saying the details would be discussed in court.

Abe gives out info via Facebook page

Masami Ito
STAFF WRITER

Prime Minister Shinzo Abe has learned his lesson: Instead of giving short, daily media interviews, he has launched a new Facebook page to provide information to the public on his terms while conveniently avoiding the kind of verbal missteps that plagued his recent predecessors, including himself during his 2006-2007 leadership stint.

Posting a close-up of his hand giving a thumbs-up, Abe appealed to Facebook users Jan. 10 to overcome the nation's

present difficulties together and explained that he wants to share his Cabinet's policies in an "easy-to-understand and visible" manner.

The prime minister's page had logged more than 95,000 "likes" as of Jan. 11.

But Facebook is a one-way street and Abe can choose to post whatever he wants, sidestepping any inconvenient facts. Experts called it a smart strategy for a national leader, and said it will now be up to conventional media outlets to strengthen their journalistic operations to make sure the public is supplied with all

the necessary information.

"By sending out messages directly to the public, Abe is trying to control information and avoid being tripped up (by reporters). But this is bypassing the media, and the public and media, now more than ever, need to keep a careful watch over the government," said Yasuharu Ishizawa, a professor of politics and media at Gakushuin Women's College in Tokyo.

According to the Cabinet Office, the Facebook page will be updated roughly twice a week, mainly with specific messages Abe wishes to convey to the public. The prime minister has already received thousands of messages from Facebook users, many congratulating him on the LDP's

election victory and voicing hope that Japan will change for the better under his stewardship.

But Ishizawa warned that Abe should not interpret these messages as a true reflection of public opinion, explaining the number of "likes" and positive comments on his Facebook page does not necessarily express the majority view.

"The frightening thing about Internet (sites) like Facebook or Twitter is that the messages sent to you are often delivered by those who share your views. ... Facebook is a closed (community) and Abe needs to be careful because there is a dangerous possibility that he could misread public sentiment," Ishizawa said.

INTO[®]
the global education partners

入場
無料

大学留学セミナー2013

イギリス、アメリカ、中国の12の大学及び
教育機関による合同留学フェア

高校卒業後の大学留学、大学生のための語学留学や大学学部留学、
大学卒業後の大学院留学までのプログラムについて留学生担当官と
個別面談することができます。各大学の特徴やコース内容、入学方法、
予算などについてお気軽に直接お尋ねください。(通訳手配可)
説明会：IELTS対策、ビザ、留学後の就職など

大阪 2月14日(木) 16:00 - 20:00
会場：ハービス E N T
オフィスタワー 9 F

東京 2月16日(土) 13:30 - 18:30
会場：住友スカイルーム
(新宿住友ビル 47F)

主催：INTO 協賛：SI-UK | 参加大学一覧・ご予約はINTO日本語サイトから

www.into-uk.jp/events

第11回
イギリス・アイルランド
大学留学フェア (SI-UK 主催)

ロンドン大学 (SOAS, キングズカレッジ等)・ケント大学・
ウォリック大学・グラスゴー大学・レスター大学・
セント・アンドリュース大学・サセックス大学・
ニューキャッスル大学・イースト・アングリア大学・
ダブリン・シティ大学を含む大学40校以上が参加!

説明会：IELTS対策、ビザ、MBAセミナー、留学後の就職など

大阪 3月29日(金) 17:00 - 20:00
東京 3月31日(日) 12:00 - 17:00

主催：SI-UK | 参加大学・会場・地図・ご予約などの詳細はこちら

<http://unifair.ukeducation.jp>
入場
無料

SI-UK
Education Council

SI-UKは、イギリスとアイルランド
の大学の出願窓口で、皆様の留学を
無料でサポートしています。SI-UKの
無料出願サポートの詳細は、下記の
連絡先までご連絡下さい。また、留学
に必要なIELTS対策など、各種英語
コースも開講しています。

お問い合わせ

東京 ☎ 03-5272-9143
東京 ✉ tokyo@ukeducation.jp

大阪 ☎ 06-6345-5796
大阪 ✉ osaka@ukeducation.jp

www.ukeducation.jp

Studying Abroad in the U.S.A.

私の米国留学

Studying Abroad in the U.S.A.

私の米国留学

アメリカ留学も IELTS の時代へ

～ IELTS はアメリカの約 3,000 の大学・プログラムで認定されています～

アメリカの大学や大学院では、これまで多くの日本人学生が学んできました。そして現在もまた、夢を抱いた学生たちが留学しています。彼らはどんな留学生活を送り、留学で何を感じたのでしょうか。このコーナーでは、留学経験者や現在留学中の学生に、留学の様子やメリット、英語学習、アメリカの魅力などについて伺います。

本コラムは以下の 2 団体の協力により連載をしております。

■ JTSAU(米国大学院学生会)http://gakuiyugaku.net/ ■ USCANJ(アメリカ学部卒業生ネットワーク)http://www.uscanj.net/



全力で勉強する有意義な経験

ボストンカレッジ教育学大学院 新見 有紀子さん

「知」の中心で学べる環境

日本で大学を卒業後、大学職員として働いていましたが、国際的に活躍できる日本人学生の育成や、日本の大学の国際競争力の向上などに役立つ専門性を身に付け、日本の大学に貢献したいと思い、留学を決めました。まずはミネソタ大学で 3 年間、教育心理学を学び、修了後にボストンカレッジに進学。高等教育専攻の博士課程で、これまでにアメリカの大学制度、大学の歴史、大学の国際比較、学生の発達理論などを学んできました。

ボストンは、世界的に有名な大学がいくつも存在し、さまざまな分野の研究者や専門家などが世界各国から集まっている「知」の中心とも呼べる場所です。高等教育を専攻する者として、そんなボストンで学べることはとても理想的だと感じています。

留学して日本の良さも知る

ボストンカレッジは郊外の閑静な住宅街に接した場所にあり、学内に緑も多く、キャンパスがとても美しいことで有名です。期末試験期間中には図書館が 24 時間体制となり、夜にはコーヒーなどが無料で設置されるなど、キャンパス全体として学生の勉学を応援しようという雰囲気があります。

私は、博士課程の 1、2 年目は授業のほか、課題や論文執筆もあったので、



ボストンカレッジを卒業した友人と一緒に

週末も勉強する忙しい日々を過ごしていました。3 年目の今は慣れてきたので、週末に出かけたり、平日の夜にジムで運動したり、気分転換の時間を意識的にとるようにしています。

アメリカの大学院では、課題がとても多く、時間や体力との戦いともいえます。それでも、自分を限界まで追い込み、勉強に全力で取り組むという経験自体が、とても貴重で有意義だと感じています。

さらに留学してよかったと思うことのひとつが、日本の良さや素晴らしさを再発見できたことです。海外に実際に住んでみることで、日本の伝統のある文化、人々の親切さや細やかさなどにあらためて気がつくことができました。

新見 有紀子さん プロフィール



1980 年 生まれ。2010 年、ボストンカレッジ教育学大学院に進学。現在、同大学院高等教育専攻博士課程 3 年次に在籍。



互いを認め合い尊重することを学ぶ

会社員 (ウェズリアン大学卒) 萩原 茂樹さん

留学生が助け合って励む

小学校から高校までは鹿児島県の公立校でしたが、海外でのホームステイや国際交流プログラムに積極的に参加をしていました。その経験から、海外で学び、いろいろな国の友人を作り、世界的な視野を身につけたいと思い、アメリカの大学への進学を選びました。さまざまな分野の科目を受講できるリベラルアーツ教育制度に魅力を感じたことも留学を決めた理由のひとつです。学費全額支給の奨学金プログラム(フリーマン奨学金)のあるウェズリアン大学を選びました。

在学中は、毎学期 4 科目程度を受講し、ドイツ語、中国語などの外国語の授業や、歴史や経済などの授業を受けていました。それ以外に、声楽やバイオリンなど、授業として単位の得られる音楽のレッスンも受けていました。

とにかく宿題が大変で、次の授業までに読まなければならない reading material が非常に多く、英語が母国語でない留学生はなおさら必死に勉強をしなければついていけません。そんななか、私をはじめ留学生たちが図書館やカフェに集まって、助け合いながら宿題や試験前の勉強に励んだことは印象に残っています。

Work Hard, Party Hard

ウェズリアン大学のモットーは多様



大学で所属していたアカベラグループの仲間と

性という意味の Diversity で、アメリカの文化らしく、国・民族・宗教・哲学・好みや考え方など、さまざまな違いを持った人々が共存し、互いを認め合うことが大事にされていました。そこで私自身も、どんなことにもいろいろな考え方があるということを常に意識し、とくに相手の話をよく聞き、相手を尊重することを学びました。

それから、学生たちには、日曜日～木曜日の夜は学問に励み、週末は遊ぶというけじめがあり、いわゆる「Work Hard, Party Hard」が浸透していました。また、小さな町にある大学でしたので、課外活動もパーティも含めて四六時中キャンパス内で生活でき、勉強するにはとてもいい環境だったと思います。

萩原 茂樹さん プロフィール



1982 年 生まれ。高校卒業後、コネチカット州にある私立のウェズリアン大学に入学。現在は、東京で広告代理店勤務。

JTスタッフがオススメする

読んでほしいこの3冊



世界で活躍するには、語学力のみならず、人間の奥深さも大切。読書を通じて、見聞を広めよう。このコラムでは毎回、ジャパントイムズのスタッフが大学生に向けてお薦めする本をご紹介します。

● 今月の推選人 ●

クロスメディア営業部 小野塚 倫 (おのづかりん)

1 サイゴンから来た妻と娘

今後日本の大切なパートナーとなっていこうベトナムという国の民族性を理解するための、良質の入門書。新聞社特派員としてベトナム戦争を追い続けた著者が、子連れでベトナム人妻との日本での生活を中心に描いたエッセイ。陽気でたくましい妻と懸命に日本に順応しようとする娘、サイゴン陥落当日の市内の混雑や日本の難民受け入れについて、懐の広い国際人であった著者の目線で描写していく。

近藤 紘一 (文春文庫)



2 ワイルド・スワン

昨年の反日暴動時の中国の姿を文化大革命や紅衛兵に重ねる声は多かった。著者が体験した当時の壮絶な描写は、日本人には理解しがたい部分も多い中国人気質を考えるうえで、「なぜ」こうなっていったのかを理解する助けになる。清朝末期から文化大革命という激動の時代を祖母・母・著者 3 代の女性の人生を通して描き世界的ベストセラーとなりながら中国では今も発禁となっている自伝的ノンフィクション。

ユン・チアン (講談社文庫)



3 安閑園の食卓 私の台南物語

日本占領時代から戦後にかけて、古き良き台湾の富豪家庭に育った著者が子供時代を書いたエッセイ。南国の自然と長い中華料理の伝統に支えられた食文化の豊かさと、大家族の濃密な人間関係に圧倒される。宝石とお見合いを商売にする纏足のおばさんや、総督府最高顧問にあった著者の父の逸話など、垣間見える時代背景から、中華圏でありながら大陸とはまた異なる時代を経てきた台湾の成り立ちを感じることができる。

辛永清 (集英社文庫)



Study Abroad Benefits

留学で培う3つの力

留学で培う3つの力

Vol. 3

Swarthmore College 植田龍也

留学を通して何かを身に付けたり、考え方に影響を受けた人は多い。このコーナーでは「IELTS 北米奨学金」「IELTS Study UK 奨学金」の受賞者たちに、留学で培った3つの力について語ってもらう。今回は、Swarthmore College の植田龍也さんに話を伺った。

Swarthmore 大学に正規の1年生として留学している植田龍也です。専攻は3年生になるまで決める必要がなく、現在はリベラルアーツという日本でいう教養学部所属しています。1年生、2年生のうち、幅広く多岐にわたる学問を学び、教養人・国

際人としての素地を養った後、3年生から専門性を高める教育を受けています。このSwarthmore College で養われた3つの力は、「マルチタスク力」、「状況把握力」そして「行動力」です。

◎マルチタスク力

大学ではさまざまな事が同時並行で行われています。よく課題の提出期限や課外活動の日程がかぶる事が、手帳や記憶を最大限に活用して予定を組み立てていく必要があります。多くの課外活動の合間を縫って勉強時間を見つける必要があることも少なくありません。

私の場合であれば、秋学期の頭のほうで、午前中にスペイン語のテスト、午後から翌日の早朝まで2泊3日のフェンシングのトーナメントに行くためのバスに乗車、深夜までに心理学の5～7ページのペーパーの提出期限など、3つの事柄がかぶった日もありました。その日の朝は早く起き、スペイン語のテストのための勉強をし、トーナメントのための必要な荷物をつめ、その荷物を持ってテストに向かいました。テストが終わってからは、バスに乗ってからは、ペーパーを書くためのステップをしっかりビジョンして、フィラデルフィアからシカゴまでの12時間ほど、書く作業に専念しました。バスの中では、果たして終わるのか、という不安な思いと共に、もっと前から準備して置けばよかった、という後悔に駆られる中で必死に筆を進めていきました。バスと一緒に乗っている他の生徒は、皆元気で移動時間を楽しんでいる、というわけでもなく、ほとんどの人が私と同じく必死にペーパーを書いていました。わずかにいる、宿題がない人たちも周りに気を使って静か



バスの中で勉強中

にすごしていたのを覚えています。

このような状況に一度となくおかれた事があり、やはり同時平行で行われる物事を上手にこなす事が大事だな、と痛感しました。この能力は大学だけでなく、実社会に行き、就職するときでも効率よく働き成果を残すためにとても肝要な能力だと思います。また、似たような状況を後に何度か経験したので、この力をもっと体得し、改善していく上で必要な事の検討が多少つきました。この力の本質は、自分がどのような状況におかれているかを把握する状況把握能力と実際に行動に移す行動力がとても必要だと思っています。



剣を交わして勝つと誓った

◎状況把握力

状況把握力は自分がどのような状況に置かれていて、どういう対処法があるのかを吟味する能力です。私はこの能力と似た能力が大学で養われる事に気づきました。それは、多角的思考力です。状況把握力は、さまざまな角度から物事を見、いろいろな可能性を考慮したうえで結論を導き出す多角的思考力の類義語ではないでしょうか。授業をまじめに受けたり、議論に積極的に参加する、課題に真剣に取り組むなどこの能力は大学の学習面ではもちろんの事、生活面でも、さまざまな国籍の人と折衝し、意見をぶつけ合う中などでもこの能力は磨かれます。

私のもうひとつの運動部であるバドミントン部での試合で、この状況把握力の大切さを日々思い知らされています。世界一の初速400km/h超を持つこのスポーツは、相手の動きを見て、予測して動く事が非常に大切です。相手の作戦、心理、フォーム、癖などの多くの情報を加味して、自分が相手だったらどのような手で攻めるのかを常に考えるこのスポーツは瞬時の状況把握力が鍛えられます。このように状況把握



仲良し4人組

力はさまざまな場面で学ぶ事ができています。この能力を学ぶ上で感じたのですが、優れた状況把握力をもってしても、導き出した結論を楽観的に受け止めてしまえば意味がありません。まず状況を理解・分析する際、楽観的に物事を見る癖をやめることが大切だと思っています。

しかし、現在勉強している発達心理学のクラスによると、楽観主義は若い方はしょうがない部分もあり、年齢を重ねるにつれてより現実的で冷静に物事を見る事ができるようになるという説が有力だそうです。何故若い人は楽観主義に走るのかまだよく分かっていないそうなので、自分の経験を基に仮説を立て、検証し結論を導き出したいですね。

◎行動力

単純に、考えを行動に移すだけなのでこの能力はとてもシンプルに見えるのですが、大学で多くを学ぶうえでもっとも大切な能力だと思っています。状況把握能力を身に付けても、将来とるべき行動の利害がどれだけわかっている、やはり行動を起こさない事には何も変化は起こりません。私はもともとあまり積極的ではなく、色々忙しいから、などと言って自分がやりたいと思う活動・自分を高めるための努力を先送りしていた事があります。高校時代、部活や勉強などもあと一歩のところまで手を抜いてしまい、自分のできる限りの力を出し切れない事も多くありました。

しかし、Swarthmore College で勉強するようになってから、行動力とやる気に満ち溢れた学生たちと過ごすようになり、少しずつ自分が感化されているのを実感します。Swarthmore College の学生、特に先輩たちは楽しむ事、そして学ぶ事がとても上手です。彼らはいろいろな事に挑戦し、充実した毎日を送っているのが分かります。そんな彼らを見て私も色々活動を始めました。部活はフェンシングとバドミントンの二つで、他にも中国、韓国、アジアの学生団体に入っており、また2011

年3月11日に起こった東日本大震災のボランティアグループにも入っています。週3日ずつの運動部の練習の後、中国や韓国から来た学生たちと議論を交わしたり、東日本大震災で影響を受けた小学校に手紙を書いたりビデオレターを撮ったりなど、忙しいですが学びの多い日々を送っています。

また、上記の活動に加え、来学期からは日本の文化を紹介するサークルを立ち上げようと思っています。他国からの学生とSwarthmore College で交流していると、やはり、私は日本人なのだ、としみじみ思うときが多々あります。現在Swarthmore College に日本から留学している学生の2人のうちの1人として、私は日本のよさを他の学生たちに伝える義務を背負っていると思います。来学期さらに時間のない日々が続きそうですが、とても楽しみです。



友達と Party に向かう途中

University's Challenge

国際交流に取り組む大学

多彩なプログラムを展開し
「グローバル・キャンパス」へ

千葉大学

千葉県の中央部に広大なキャンパスを持つ、国立大学法人千葉大学。平成24年度、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」などに独自のプログラムが採択され、国際化を進めるための複数の大きなプロジェクトが、並行して進められている。その具体的な内容について、渡邊誠副学長・国際戦略室長にうかがった。

「スキップワイズ・プログラム」を推進

「本学ではこれまで、文部科学省が推進する数々のグローバル化事業に採択されてきましたが、平成24年度には新たに、グローバル人材育成推進事業、世界展開力強化事業に選ばれました。これをきっかけに、『グローバル・キャンパス・千葉大学』という国際化に向けての方針を、さらに進めていきたいと考えています」と、渡邊誠千葉大学副学長・国際戦略室長。首都圏の代表的な国立大学のひとつとあって、海外の大学・研究機関との結びつきが強く、留学生の受け入れ、日本人学生の送り出しを盛んに行ってきたが、今年度新たなプログラムを発足させることによって、グローバル化をより積極的に推し進めることになった。

文部科学省の今年度の「グローバル人材育成推進事業」に採択されたのは、学生の語学力・コミュニケーション力を鍛え、より自信を持って海外に出ていくことができる環境を整える「スキップワイズ・プログラム」。「スキップワイズとは、Skip&Skip、Knowledge Stock、International Support、Professional Experienceという4つのアクションプランの頭文字S・K・I・Pと、『賢い』という意味を持つwiseを合わせた、本学オリジナルの造語です。これらのアクションプランによって、『知識準備（Knowledge Reserves）高流動（High Mobility）型グローバル人材』を育てることを大きな目標としています」

「飛び入学」「国際日本学履修」の試み

最初のアクションプラン「Skip&Skip」は、「飛び入学」や「早期卒業」といった制度を駆使し、自分の価値観や留学先のセメスター開始、日本での就職時期に合



渡邊誠副学長・国際戦略室長。千葉大学工学部工業意匠学科卒業、同大学院自然科学研究科博士課程修了。デザイン科学を専門とする。インダストリアル・デザイナーとして数々の賞を受賞、共著書に『左脳デザイン』（海文堂出版）など。

わせ、修業年限をフレキシブルにしようというもの。例えば千葉大学では、高校2年修了後、1年早く大学に入るシステムを、平成10年から実施。また、デザイン教育において、海外の大学と提携することで、早期卒業して海外の大学院に留学することができる仕組みも設けている（後述「大陸間デザイン教育プログラム」）。

「Knowledge Stock」というプランは、「国際日本学」を第2の教養教育プログラムとして設定、「コミュニケーション」のための英語を習得し、日本文化や海外の異文化について外国人と英語で会話ができるようになることを目指す。一定の単位を取得することで、「国際日本学修了」という履修証明が得られるそうだ。

「International Support」とは、留学の情報提供やアドバイスをより利用しやすくシステム化するもの。コーヒーを飲みながら英語で話をしたり、映画鑑賞・英語での講演会などを行ったりする「イングリッシュ・ハウス」というスペースも設置。学生がキャンパス内で日常的に英語に接することができるよう配慮されている。

また、「Professional Experience」として、海外や日本国内の機関で英語によるインターンシップ、ボランティア活動に参加する機会を支援する。千葉には成田空港、東京ディズニーランド、コンベンションセンター幕張メッセなど、外国人の集まる大規模施設がある。こういった場所でボランティアに参加する機会を、大学が提供してくれるのだ。

千葉大学では、このプログラムを通して、平成28年度までの5年間に、学部生の50%にあたる1,200人が何らかの国際的なプログラムに参加し、30%にあたる700人が、短期語学研修などを含めた留学を体験することを目標としているそうだ。この学部生の30%が留学経験者という数字は、アメリカの名門大学ハーバード大学と同じ率になる。「現在でも、年間300～400人という学生が何らかのかたちで留学を経験しているので、決して困難な目標ではありません。英語力向上のためのプログラムも充実させ、学生の卒業時の英語力がさらに上がるようにしたいと考えています」

海外の学校で先端技術を指導

今年度文部科学省に採択されたプログラムとして、もうひとつ「大学の世界展



「考える学生の創造」を目指し、2012年3月にオープンした附属図書館/アカデミック・リンク・センター

開力強化事業」の「ツイン型学生派遣プログラム」(TWINCLE)がある。これは、教育学研究科の学生とその他の研究科の学生がペアを組んでインドネシア、タイなどASEANの国に赴き、現地の小中高で、日本文化や日本の先端研究をテーマに授業を行うものだ。

このプログラムによって、例えば、教育学部で生物を専攻する学生が、園芸学部で植物栽培の最先端研究をする学生と組み、インドネシアの高校で最新の農業技術についての授業を行うといったことができる。千葉大学は、ほかにも看護学、環境リモートセンシング（人工衛星による気象観測など）において高い研究成果を上げており、ASEAN諸国の生徒たちにとって、世界最先端の技術にふれる貴重な機会となりそうだ。

「大学としてはただ学生を送り出すだけでなく、渡航前の準備、英語教育、帰国してからのフォローなど、トータルに計画しています。2週間のトライアル、1カ月のショートコース、6カ月のロングコースといった設定を行っているため、いきなり長期間滞在するのが不安な学生は、まずトライアルで参加し、手ごたえを得たところで、6カ月のロングコースにチャレンジすることもできます」

すでに、平成24年度は40人、平成25年は80人の学生を派遣する予定が決まっている。インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジア、シンガポールに協定校である大学があることから、それらのネットワークを駆使し、約20の小中高校を派遣先として確保しているそうだ。

また、同大では、中国や韓国の大学と連携した、「植物環境デザインプログラム」(P-SQUARE)も実施。植物工場や都市の緑化に携わる国際的な人材の育成

に務め、ASEAN諸国の技術教育に大きく貢献しようとしている。

学部3.5年で海外の大学院へ

昨年度から行われている事業としては、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」である「大陸間デザイン教育プログラム」(CODE)がある。これは、イギリス、フィンランド、イタリア、アメリカの大学と協力し、「学部3.5年」+「修士2.5年」というユニークな修業年限を可能にしたもの。工学部デザイン学科の学生を対象に行われていて、日本の学部を3.5年で卒業すると、間をあけることなく9月から海外のアートスクールの大学院へ留学。1年の間に複数の国で学ぶことができ、修士1年の後期が始まる前に帰国。海外の大学院に留学しても、日本にいたときと同じ条件で就職活動に臨むことができる。「本学では工学部の中でエンジニアリング・デザインを学びますが、海外のパートナーにはあえてアートスクールを選び、技術だけでなく、新しい提案を行うデザイン・プロモーションや、ビジネスとしてのデザインなども学べるようにしています」。提携大学からの留学生も受け入れ、デザイン学科の大学院生たちは、留学生とともに英語で授業を受けることができる。毎年5～10人を送り出し、10～20人ほど受け入れることを予定しているそうだ。「今の学生は内向きであまり海外に出たがらないなどと言われますが、それはまだ、海外でできることの可能性に気づいていないからではないでしょうか。大学がしっかりしたプログラムを準備して機会を与えれば、『海外に出るのは楽しい』『もっと新しい体験がしたい』と思うようになる学生が増え、よりグローバルな感性が養われるはずだと考えています」

千葉大学

1949年創設、千葉県の中央部に位置する、9学部11学科からなる国立大学。西千葉、亥鼻、松戸、柏の葉と、県内に4つのキャンパスを持つ。国際的な競争力を持つ医学部や、先端技術を持つ園芸学部の存在などがよく知られている。

IELTS

テストのコツ

ブリティッシュ・
カウンシル
に聞く

IELTS テストのコツ

by John Grant

今回は、リーディングテストにおける True/False/Not Given 問題（正誤問題）の対策をご紹介します。解答の鍵は、Not Given とはどのようなことかをつかむこと。そして、他の問題とは違うアプローチ法に慣れることです。

Not Given とは？

日本人の受験者はこの正誤問題に悩まされています。Not Given の概念をつかめていないことが理由のひとつです。Not Given とはどのような意味なのでしょうか。以下の例題で考えてみましょう。

Birth rates continue to decline in Japan. In 2009, the birthrate fell to its lowest level on record at 1.37 per household, which makes it the lowest reproductive rate in the world. Consequently, there have been several government initiatives to remedy the problem including proposals to subsidize the high cost of childcare in Japan.

Japan will have problems with its pension system in the future. Is the answer TRUE, FALSE or NOT GIVEN?

出生率の低さから日本の年金制度に不安があることは常に報道されており、誰もが知っています。なので、例題の主張は True でしょうか？ 反対に、あなたは年金制度に問題は起こらないと考えているかもしれません。日本は最も経済発展している国のひとつですから、この問題にも対処できるでしょう。ですので、False でしょうか？

どちらも違います。テキストでは、将来、日本の年金制度に問題が出てくるかということには一切触れていません。テキストで True か False が言及されていない場合は、Not Given が正解です。あなた自身の考えや知識が解答に影響を与えないように気をつけましょう。

問題を解くための戦略

まずは、他の問題でもよく使う戦略（スキミング、キーワード、ターゲット・パッセージ、同義語）を確認しましょう。

■スキミング：テキスト全体の概要やポイントをつかむため、テキストの見出しと各段落の最初の一文を素早く読みます。

■キーワード：設問のなかにあるキーワードを認識し、その同義語を考えます。

■ターゲット・パッセージ：スキミングに基づいて、鍵となる文章を探します。

■同義語：文章のなかで同義語を探します。

これらのテクニックはマッチング問題には非常に効果的です。しかし、True/False/Not Given 問題においては、テキストをより深く分析した上で使わないと有効ではありません。そして、True/False/Not Given 問題は、2つのタイプに分けられます。それらには別々の戦略が必要なのです。「情報を認識する（事実ベース）」ことと、「著者の見解・主張を認識する（主張ベース）」ことです。

「情報を認識する（事実ベース）」ことについて、次の例題で考えてみましょう。設問の主張は、テキスト内と同じ表現で述べられるわけではありません。言い換えや同義語に注意しつつ、True/False/Not Given のいずれかを見極める必要があります。

Ballet is mostly commonly thought of as a purely French invention. However, the word *ballet* reflects its rich history. The word comes from the French but this was borrowed from the Italian word *balletto*, which comes from the word *ballo* or dance. It began there in the renaissance as an outgrowth of the pageantry of the court where aristocrats held lavish wedding celebrations. In fact, early ballet was participatory including the wedding guests. Ballet was further shaped in France in the seventeenth century reign of Louis XIV who was passionate about the dance and codified several dance positions.

Now say if the following statements are TRUE, FALSE, or NOT GIVEN

1. Ballet originated in France.
2. The King of France cares deeply about ballet.
3. Ballet was popular in courts across Europe in the seventeenth century.

■解答

1. FALSE

Began there は originated の同義語なので、正解は True と考えた人もいるかもしれませんが、there はフランスではなくイタリアを指しています。

2. TRUE

Passionate は to care deeply の同義語。Reign という言葉から、Louis 14 世がフランス王であったことも分かります。

3. NOT GIVEN

フランスとイタリアについては言及されていますが、ヨーロッパのすべての国という解釈はできません。

次に「著者の見解・主張を認識する（主張ベース）」ことについて見てみましょう。この問題は他のセクションの論理とは相反する点があるので、多くの受験者が苦手としています。「事実ベース」のタイプは、すでに紹介した戦略を使って回答すればよいのですが、この「主張ベース」のタイプでは戦略も変わります。このタイプの問題では、まず設問を頭の中で翻訳して、次にテキストをしっかりと理解するように読み進めましょう。

例題のテキストを読む前に設問を確認します。

The writer considers the play “Waiting for Godot” to be boring.

キーワードは、considers、Waiting for Godot、boring です。続いて、演劇について書かれたテキストを見てみましょう。

Superficially, it would appear that Samuel Becket’s seminal play “Waiting for Godot”, is all about nothing with very little plot or purpose. Critics argue that the tedious monotony of the play, where in fact Godot never arrives, is a boring exercise of futility.

Waiting for Godot という演劇名について、little plot や monotony、tedious などの boring の同義語、そして boring という単語も確認できます。ここまで読んだ限りでは、答えは TRUE です。しかし、superficially や seminal、critics argue などの単語もあり、筆者の主張を見極めるためもう少し読み進めましょう。

It is, in fact, a deeply compelling examination of life with several current interpretations. Though the characters of Estragon and his friend Vladimir occupy their time eating, arguing, singing, swapping hats and contemplating suicide, they do this to push away the unbearable silence.

正解は FALSE です。筆者は critics には賛成しておらず、boring とは反対の deeply compelling と述べています。解答に必要なのは critics の議論ではなく、筆者の意見なのです。

終わりに

この True/False/Not Given 問題において Not Given の意味を理解しておくことは、とても大切です。そして多くの受験者は、設問やテキストについて全体的な分析をせず、他のタイプの問題と同じ戦略で取り組んでしまいがちです。十分気をつけてテストに臨みましょう。

IELTS™

IELTS.
The international
license.IELTSという名の
国際免許証

IELTS (International English Language Testing System、アイエルツ)は、英語圏への留学や、移住を志す人の英語能力を評価するために作られたテストです。信頼性、公平性の高さからイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダを始め世界135カ国で約7,000の機関が、IELTSを受け入れ基準として認めています。2011年の全世界合計の受験者数は、170万人に達し、英語能力試験のグローバルリーダーの役割を果たしています。

日本では、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、岡山、福岡、札幌、仙台、金沢で受験することができます。

お問合せ・受験申し込みは、公益財団法人 日本英語検定協会 IELTS 事務局まで

www.eiken.or.jp/ielts

IELTSとは…

16歳以上を対象にしたテストで、英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するアカデミック・モジュールと、英語圏で学業以外の研修を考えている方向けのジェネラル・トレーニング・モジュールの2種類があります。いずれも、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4つのテストで構成されています。IELTSは、フェアな試験内容と高い信頼性が特徴のテストです。一般的な英語検定テストと特に異なるのは、1対1の面接形式で行われるスピーキングテストがあることです。試験官が、受験者のコミュニケーション力を最大に引き出し、評価できるようにインタビューを行います。これが、他のテストと一線を画す、生きた英語を習得できるのがIELTSの強みです。



ブリティッシュ・カウンシルでは、IELTS 試験対策コースを東京・横浜で開講中!!

www.britishcouncil.or.jp

勉強法や留学した人の体験談がわかる
<https://www.facebook.com/bcofficialIELTSjp>

公益財団法人
日本英語検定協会

BRITISH
COUNCIL

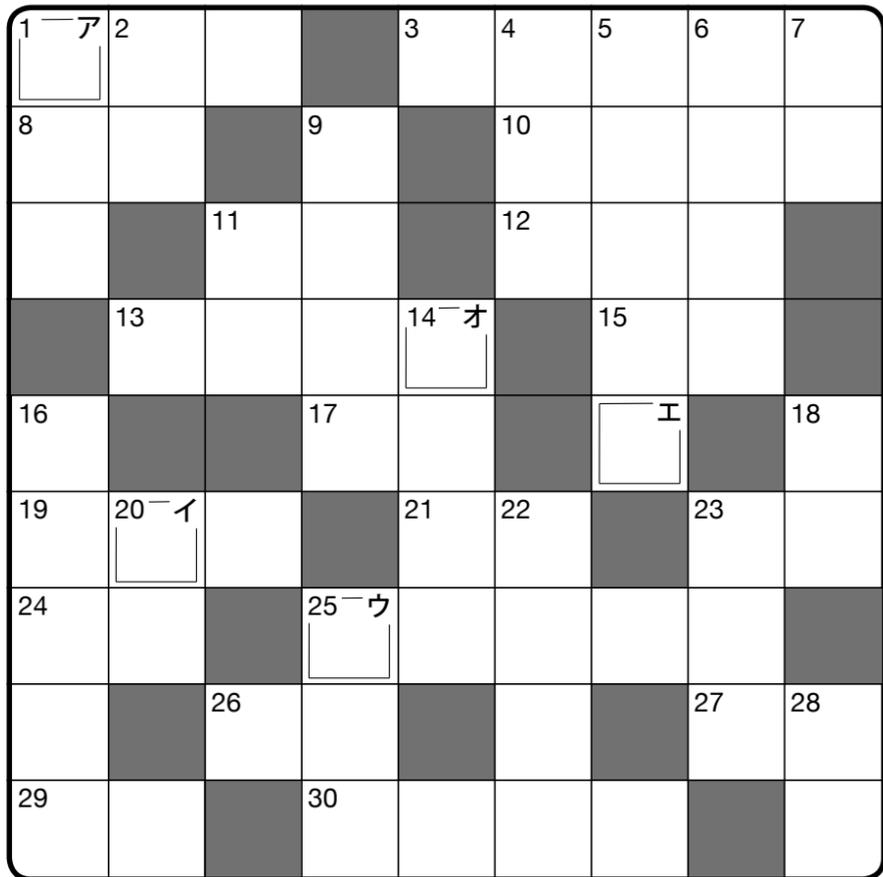
公益財団法人 日本英語検定協会は、
ブリティッシュ・カウンシルと
日本でのIELTSを共同運営しています

Crossword and Trivia

読み物

Crossword Puzzle by 黒須和土

語彙力が試されるクロスワードパズル。簡単ではないかもしれませんが、根気よく挑戦してみましょう！



- 8. Tower __ Babel
- 10. “__ number are you calling?”
- 11. “The grass is greener __ the other side.”
- 12. “__ sleeping dogs lie.”
- 13. An animal that is killed and eaten by other animals
- 15. “He is late, __ usual.”
- 17. “__ need each other.”
- 19. Small dog with a wrinkled face
- 21. “I __ alive.”
- 23. Wall-__-wall carpeting
- 24. “Might __ right.”
- 25. Validate
- 26. “__ nice to your friends and family.”
- 27. Indefinite article
- 29. The Battle of __ Alamein
- 30. __ off: dozes

DOWN

- 1. “The __ calls the kettle black.”
- 2. “You can stay with us __ you want.”
- 4. Large bird active at night
- 5. Opposite of *expensive*
- 6. Sow one’s wild __: be promiscuous before marriage
- 7. __&T (large U.S. telephone company)
- 9. Past tense of *know*
- 11. “It’ll only take five minutes __ so.”
- 14. Twelve months
- 16. American film director ____ Lee
- 18. “Way to __!”
- 20. Object form of *we*
- 22. Emotional state
- 23. __ cozy: a cover to put over a teapot
- 25. Instrument for writing
- 28. Number (abbr.)



※週刊STより転載

ヒント

今回、テーマはありません。8-Across は「バベルの塔」。3-Acrossの最初は C。10-Acrossは「何番へおかけですか」。11-Across は「隣の芝は青い」。12-Across は「寝た子を起こすな」。13-Across は「えじき」。最初は P。23-Across は「床一面に敷きつめたじゅうたん」。24-Across は「力は正義なり」。1-Down は「(自分のことを棚に上げて) なべがやかんを黒いという」。6-Down は「結婚前に遊ぶ」。男性について使います。7-Down は American Telephone and Telegraph Company (米国電話電信会社)。16-Down の 1、4 字目は S と K。18-Down は「やったね！」。

【作者のひとこと】 黒マスが、パズルの答えとなる単語の形に並んでいます。

ACROSS

- 1. Pork comes from this animal.
- 3. Hot chocolate

教えて! 英語のプチ教養

文：黒須和土

Sunday、Mondayなど、英語の曜日の名前にはどんな由来があるのでしょうか？

英語の曜日の名前は、古代ローマのローマ暦のころに決まった七曜日の名前が元になっているようです。それぞれの由来は以下の通りです。

- **Sunday** ⇒ 「太陽の日」。ローマ暦によるラテン語の *dies Solis* (sun’s day) に基づきます
- **Monday** ⇒ 「月の日」。ラテン語の *dies Lunae* (moon’s day) に基づきます。
- **Tuesday** ⇒ 「軍神ティーウの日」。Tiu (ティーウ) はアングロサクソン神話の空と戦争の神で、北欧神話の戦争と勝利の神 Tyr (ティール) に相当します。これは、ローマ暦によるラテン語の *dies Martis* (ローマ神話の軍神マルス (Mars) の日) に基づきます。Mars は「火星」という意味です。

- **Wednesday** ⇒ 「最高神ウォドンの日」。ウォドン (Woden) はアングロサクソン神話の最高神で、北欧神話の最高神オーディン (Odin) に相当します。これは、ラテン語の *dies Mercurii* (ローマ神話の神メルクリウス、マーキュリー (Mercury) の日) に基づきます。ウォドンとマーキュリーの共通点はあいまいなのですが、両者とも霊界に靈魂を案内する役目を担うといわれています。Mercury は「水星」です。
- **Thursday** ⇒ 「雷神トールの日」。トール (Thor) は北欧神話の最強の神で、雷、戦争、農業をつかさどります。ラテン語の *dies Jovis* (ローマ神話の主神ジュピター (Jupiter) の日) に基づきます。ジュピターは天界を支配し、雷をあやつる神です。Jupiter は「木星」です。
- **Friday** ⇒ 「女神フリグの日」。フリグ (Frigg) はフレイヤ (Freyja)、フリガ (Frigga) などとも呼ばれ、オーディンの妻で、愛と豊穡の女神です。これは、ラテン語の *dies Veneris* (ローマ神話の美と愛の女神ビーナス (Venus) の日) に基づきます。Venus は「金星」です。
- **Saturday** ⇒ 「農耕の神サトゥルヌスの日」。サトゥルヌス (Saturn) は古代ローマの神で、ギリシア神話のクロノス (Cronus) に相当します。これは、ラテン語の *dies Saturni* (サトゥルヌスの日) に基づきます。Saturn は「土星」です。
旧約聖書の『創世記』によれば、神は6日かけて世界を創造し、7日目に休みました。7日を単位に時間を区切るのは、バビロンやペルシャ、そのほかの文化でも見られた古くからの習慣です。地域によっては違う日数が週として取り入れられた例もあるようです。
一週間が月曜日を第1日として日曜日で終わるのか、日曜日を第1日として土曜日で終わるのかは、議論が分かれるところですが、正式には、国際標準化機関 (ISO) の決定で、1971年から月曜日が第1日とされています。

※週刊STより転載